

# 障害のある人が地域で暮らすこと



1981年の「国際障害者年」を契機に、どのような障害があっても地域で共に暮らすというノーマライゼーションの考え方が広まりました。「障害」は、病気や外傷などから生じる個人的なことではなく、日常生活や社会生活を営む上で壁となるような事物、制度、慣行、観念など、社会的な障壁によって生じる問題だと考えられるようになったのです。すべての人が、元々持っている自分らしさを大事にすること、地域社会で生活したり社会参加したりすることについて、考えてみましょう。

人の手を借りることがあっても、親が元気なうちに自分の生活を築きたい(自立したい)と思い、40年前に一人暮らしを始めました。

もちろん周りの人々の心配もありました。しかし、アパートの管理人さんや地域の人たちが温かく受け入れてくれたおかげで、自由に生きてくることができました。

初めのこの出会いがなければ、現在までこの生活が続いたかどうか分かりません。

## 山口さよさん(四日市市在住)

1980年ごろから日本でも取り組まれるようになった、障害者の「自立生活運動」の先駆者の一人です。介護保険や障害者の在宅支援が全くなかった時代に、施設を出て自力で介助ボランティアを募り、地域で一人暮らしを実現してきました。

詩人「やまぎり萌<sup>もえ</sup>」として創作活動も行っています。詩の朗読イベント「詩のボクシング」に参加したり、疲れたら息抜きができる場所「夢織りねこの部屋」を自宅に設けたり、地域の学校や市民向けの講座で話をしたりするなど、ノーマライゼーションをしなやかに実践しています。



夢物語ですが、電車で一人旅をしてみたい。乗降する人を見たり、風景を見たり…ヨーロッパで国境を越える体験もしてみたいです。

◀「人権大学あすてっぷ」で京都へ

## じんけんフェスタ2019

時 12月8日(日) 9:30~16:00  
所 文化会館

1948年12月10日に世界人権宣言が採択されたことを記念し、12月4日~10日は人権週間と定められています。

すべての人の人権が尊重される社会の実現に向け、広く人権について考える機会として「じんけんフェスタ」を開催しています。この機会に皆さんも人権について考えてみませんか。

## 人権週間記念講演&映画



©2018「こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話」製作委員会

時 13:00から(12:30開場)  
所 第1ホール  
内 講演 山口さよ「陽だまりを求めて」、映画「こんな夜更けにバナナかよ~愛しき実話~」  
定 1,200人程度(当日、先着順)  
料 無料

主人公の鹿野靖明さんは、自ら集めた大勢のボランティアと共に地域で自立生活を送りました。鹿野さんと出会い、変わっていく人々の人生を描いた、実話に基づく映画です。